

第739回例会10月30日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラアウトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会：高木一浩 龍谷義行 ■点鐘：鷲津有一 ■週報：青山素久
- ロータリーソング：「希望のエネルギー」 ■体操のお兄さん：森俊彦
- ゲスト：青少年交換留学生 熊谷紗奈さん
米山記念奨学生 肖 英華さん
ワグネル奏者・講師 大石莉帆様（例会見学者）

出席報告/スマイル報告

会員数 77 名 (内出席免除会員 2 名)
出席数 64 名 出席率 85.33%
前々回出席率 89.33%

- ①鷲津有一さん ②青少年育成部会
さん ③奥山恵理子さん ④小澤邦
比呂さん ⑤牛田悟さん

会長挨拶

おはようございます。

青少年交換留学生の熊谷紗奈さん、例会見学の
大石莉帆さん、米山奨学生の肖英華さん、早朝よりお越
し頂き、ありがとうございます。

一昨日の日曜、地区大会にご参加くださったメンバ
ーの皆様、英華さん、高柳さん、ありがとうございました。
長時間のバス移動と大会プログラムにさぞ
お疲れだったと思います。私と鈴木幹事と金山研修
リーダーは、前日

の土曜から参加し
ました。地区大会
1 日目を経験され
ている方は少ない
と思いますので、
その様子を報告さ
せて頂きます。2
日目と重複する部



分を除くと、大会決議案の審議・地区内クラブの活
動事例紹介・地区委員会報告がありますが、配布さ
れたプログラムに要約が掲載されています。今回は
R L I (ロータリーリーダーシップ研究会)を地区
に導入するというので、地区指導者育成セミナー
が 1 日目のメインプログラムとして組み込まれてい
ました。内容については、一言では表現できるもの
ではありませんので、研修リーダーの金山会員から
機会を見つけて説明して頂きたいと思います。

夕方には、R I 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会が模様
されました。料理がとても美味しいだけでなく、星野
ガバナー、ソムリエ・ドヌールでもある野口パスト
ガバナー、ワインアドバイザーの新田正明さんの 3
人で食事に合わせ選びに選び抜いたワインを提供し
て頂き、文字通りワインと料理のマリアージュを堪能
させて頂きました。クラブの会長になって良かった
と初めて思えたひと時でした。

会長・幹事になれば、この至福の時を経験できま
すので、まだ未経験の方は、ぜひ会長・幹事になら
れることをお勧めします。

議 事

「青少年交換プログラム帰国報告」



青少年交換プログラムによりドイツに留学してい
た熊谷紗奈さんに一年間の生活について報告をし
ていただきました。

(担当：青少年育成部会)

幹事報告

- ①地区大会報告の件 ②RI 決議審議案について
- ③第 4 回理事会開催の件

委員会報告

- ①小澤邦比呂地区米山記念奨学委員
10/27 に米山ナイトが開催され肖英華さんと村田会
員に参加いただきました。前年度米山奨学生の薛安
徽さんが 10/12 に中国に帰国しました。
- ②近藤雅彦会員増強委員長
年末年始にかけて新会員を迎えるオリテン・入会式
を計画しています。ぜひこのタイミングでの入会者
の勧誘をお願いいたします。
- ③熊谷真一和服同好会
お茶の作法を覚える会を 11/8 より 5 週にわたり開催
しますので希望者をご連絡願います。
- ④山下俊彦ゴルフ同好会
12/16 に第 3 回青空例会を開催いたします。

RI2620地区 地区大会10/27・28



「青少年交換プログラム帰国報告」 熊谷紗奈さん

私はドイツのミンデンという小さな町へ派遣させていただきました。私のドイツでの派遣生活はドイツ人と過ごす時間よりも派遣学生同士の時間が多い一年間でした。

私の受け入れ地区は D1900、世界各国から約50名の派遣学生が参加していました。もちろんそれぞれに仲がいい人、悪い人がいましたが、みんな母国とは違う環境で頑張ると同じ気持ちがあったため、心のどこかでつながっているような不思議な温かい関係を築くことができたのではないかと私は考えます。



地区の中で仲が良かった学生はアジア圏からの学生が多かったです。韓国と台湾からの学生と行動を共にすることが多かったのですが、地区を大きく二つに分けると、スペイン語圏の学生とそれ以外の学生にわけられたと思います。そのためアジア以外から来た学生たちともとてもいい関係を築くことができました。

同じ町に住む派遣学生同士にはほかの学生たちの間にはない、より特別な関係が生まれたと思います。私と同じ町に住んでいた学生5人とはまるで家族のような、つらい時に支えあえる、そんな友達を超えたものがあつたと感じています。

私は以前外国人とコミュニケーションを図るとき、高度な言語スキルが必用不可欠だと考えていました。実際、派遣生活のはじめは自分の語学力に自信がなくて消極的になってしまう場面も多々ありました。しかし今考えてみると、言語はコミュニケーションのための一つの道具でしかなく、本当に必要となるのは相手を理解したい、自分を理解してもらいたい、という気持ちなのだと感じます。

共通の言語を持っていなくても、どんなに異なった文化や習慣を持っていようと、私達はお互いを理解したいという思いで共生していくことができると私は思います。

そう感じたからこそ、私は大学で多文化共生社会のために、文化面や宗教面などの多様な知識や、人々の心理について学ぼうと考えています。

これらは派遣学生と関わってきた中で生まれた気持ちです。もうひとつ、ドイツ人と関わってきた中で生まれた気持ちもあります。

私の派遣生活にはいつもドイツ人の家族や友人の助けがありました。いつもいつも優しく接してくれる彼らですが、ときどき私はどこか



疎外感を感じることがありました。それは決して彼らが私の事を嫌っているとかではなくて、理由は私がドイツ人ではないからだと感じます。彼らはドイツ人であることをとても誇りに思っています。



この小さな違和感を感じた時にふと日本について考えてみました。私たちは海外の人々に対してこれに似た壁のようなものを作ってはいないでしょうか。島国である日本はヨーロッパほど海外と関わる機会が多くなく、言語の苦手意識や異文化への恐怖を感じている人も多いと思います。

現在日本でも 多文化共生 という言葉をよく耳にします。在日外国人が増えてきている日本で、この言葉が普及することはとても素晴らしいと思います。

しかし実際に日本において私たちが行っている多文化共生化は、日本にいる外国人に日本の文化を受け入れてもらおうとすることのほうが多い、いつてしまえば一方的な多文化共生化が目立つと感じました。

しかしそうではなくて、各国における文化や習慣、宗教や、考え方の違いなどをあたりまえにある違いとして、お互いに認識して理解しあうことで生まれる多文化共生が実現した社会が、私達の目指すべき多文化共生社会 なのだと私は考えています。

大学では自発性をより意識しながらもっともっと多くの知識や経験を習得し、日本の、また最終的には世界の、本当の意味で壁のない多文化共生社会 づくりに貢献していきたいと考えています。



スマイル報告

- ① 鷺津有一さん 熊谷紗奈さん、本日は貴重な体験談をお話し下さり、ありがとうございました。
- ② 青少年育成部会さん 熊谷紗奈さん、ありがとうございました。熊谷真一さんのご協力にも感謝いたします。
- ③ 奥山恵理子さん 12/8 認知症サポーター養成講座を開催します。ご参加ください。
- ④ 小澤邦比呂さん 薛安琪さんが10/12に中国に帰国しました。また日本に来たいとのこと。
- ⑤ 牛田悟さん 年賀はがきの発売が始まりました。ご協力をお願いします。